

医師向け医療レファレンスサービスにおけるAI開発と事業化

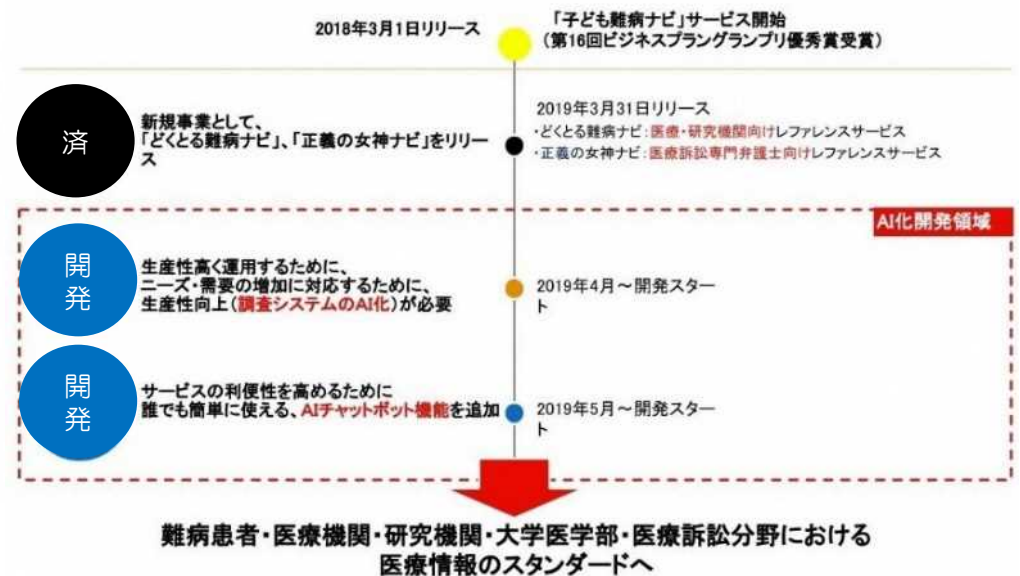
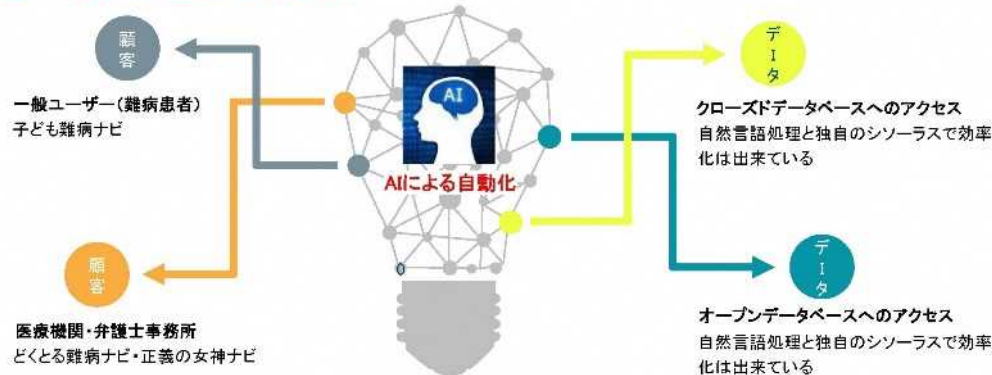
- 医療事故の多くは、情報不足、見落とし、コミュニケーション不足によるもの。現在の医療現場には、人員不足による業務過重等、医師の判断を鈍らせる要素が点在。
- 稼働中のレファレンス・サービス（（株）隼斗運営）の開発ノウハウを活用し、レファレンス・サービスのシステムをAI化することで、現体制の約30倍の情報処理とサービス提供を行い、医師をサポートする。

【構想図】

現状、依頼者（医師等）が必要とする情報を調査の専門家が収集、翻訳して提供するサービスを展開中（子ども難病ナビ など）
↓
手動で運用している部分（調査）をAI化することで、業務規模を拡大



- 医療機関（や法律事務所）は、より早く情報を入手することが可能になる
- 当社は、対応可能案件数の拡大が可能になる



事業実施主体
（コンソーシアム構成員）

（株）隼斗（臼杵市）、（医）敬和会（大分市）、大分大学医学部（由布市）、大分大学経済学部（大分市）、大分県医療介護ロボット・HAL研究会（別府市）、医療AI・ロボットダイバーシティ学会、（株）ワイズ・リーディング（熊本市）